



■特集

善光寺二世中興

大圓武志大和尚

十三回忌法要

善光寺二世中興大圓武志大和尚の十三回忌法要が平成二十八年十月二十九日午後三時から、釈迦殿で営まれ、関係のご寺院、総代をはじめ檀信徒、さらに生前ご縁の深かった方々が海外からも駆けつけ、約百五十人の僧俗が参列、焼香しました。

導師の東香山大乘寺山主・東隆眞老師は、永平寺七十六世秦慧玉禪師の詩偈を改作して「兄と慕い弟と呼び年を知らず、共に両祖の正法禪を頂く。何のこと吾に先んじて遷化し去る、無量の感慨言詮を絶す」と法語を唱え、善光寺を興し留学僧育英会を發起して多くの檀信徒に慕われた大圓大和尚一代の偉業を追慕しました。

大圓武志大和尚と駒澤大学で共に学んだ学友である東老師は、「老大和尚は宗門の大羅漢」「超人の力量、抜群の志気」と故人の徳望と生前の活躍を讃え、二人を「青山と白雲」の関係だったと偲びました。



この後、参列者は小高い丘陵の上に立つ
供養塔の前に移動し、正翁寺ご住職・箕素
明老師（横浜市）の導師により墓前回向を
営み、読経・焼香しました。

